

第1回伝統文化大賞

美濃和紙あかりアート展実行委員会

岐阜県美濃市

Mino Washi Akari Art Contest and Exhibition Organizing Committee



美濃和紙あかりアート展は、1300年の歴史を有する伝統産業である「美濃和紙」の再生と重要伝統的建造物群保存地区である「うだつの上がる町並み」の活性化・ブランド化を目的として開催している。美濃和紙を使用したあかりのオブジェを一般・小中学生の両部門で全国公募し「うだつの上がる町並み」に屋外展示し、審査を行っている。

美濃和紙あかりアート展実行委員会は、20～60代のボランティアで構成されている。役割に応じた小委員会（総務、会場、イベント、審査、交通・作品チェック等）を組織し、小委員会で検討された企画を、実行委員会（全体会議）で諮りながら運営をすべて取り仕切っている。

作品の搬入・搬出は原則として、出展者が1日目に自分の作品を持参し、受付を行う。2日目の終了後に出品者が作品を撤収している。出展者が美濃市に2日間滞在することで、美濃とのつながりが生まれている。アート展当日は、出展者や全国各地から約10万人の来場者でにぎわう。

作品の展示は、「うだつの上がる町並み」の自治会や住民の全面的な協力により、2日間会場内の道路を通行止めにして、町並み全体を展示会場としている。1日目の展示終了後は、各家に作品の保管をお願いし、2日目の朝に引き取り、再度展示する。

審査は、古川秀昭氏、堀木エリ子氏、日比野克彦氏をはじめとした一流の審査員によって厳正に行われている。大賞は無論のこと、各々の審査員名を冠したライトアップ賞を受賞された皆さんは、著名な審査員に自分の作品が認められたことに喜びを感じ、賞の重みやその価値も非常に大きく、メジャー級である。あかりアート展の作品審査の公平性やレベルの高さは、この一流の審査員により確保されている。

アート展開催に伴うイベントは、街角コンサート、美濃和紙手漉き、休憩コーナーの設置などがある。美濃市の特産品、土産品を扱った臨時売店での販売や、市の伝統芸能「美濃流し仁輪加」の上演など、地域に根差したさまざまなイベントが自主的に開催されている。

江戸時代の情緒を残す町並みの中でやさしくともなる数百点の美濃和紙のあかりオブジェたちは、美濃和紙の持つ柔らかさや美しさ、そして美濃和紙の新たな可能性を感じさせてくれる。

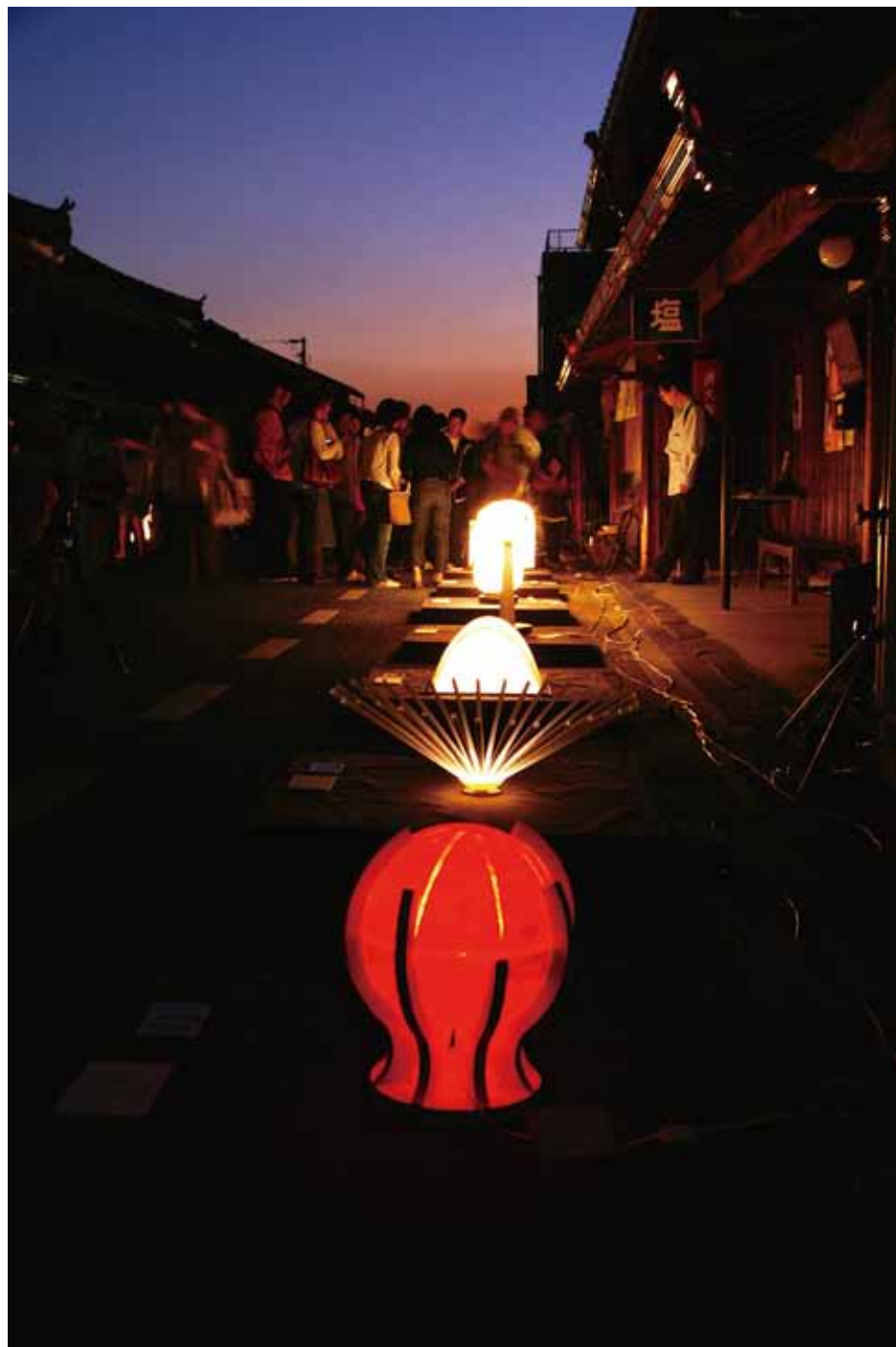


For 1300 years, the Mino region has specialized in the production of *washi*, a traditional handmade paper, and it is now one of the three remaining major centers of papermaking in Japan. Mino *washi* is made from the bark of mulberry trees, and it is known for its durability and smoothness as well as its high quality. During the Edo Period (1603–1868), Mino became prosperous through the production of *washi*, which is used for a wide range of traditional objects such as lanterns, fans, scrolls, umbrellas, and *shoji* doors. At the time, there were about 5,000 *washi* production houses in Mino, however, they began to face competition from machine-made Western paper in the 19th Century, and today only 30 workshops remain. With population of only 25,000, Mino gives some the impression of a small rural city that has been left behind by the modern era but in recent years, the city's residents have sought to revitalize the *mino washi* tradition.

One activity that is carried out in order to promote the use of *mino washi* is the Mino Paper “Akari Art” Exhibition (*Akari* means “light”). *Mino washi* has long been utilized to make traditional paper lanterns because of the distinctive soft glow that it allows to emanate through, and it was used to create the paper lanterns that inspired Isamu Noguchi’s famous “Akari” light sculptures when he visited the region in the 1950s.

During the Akari Art Exhibition, the town invites artisans from around the country to create light sculptures with *mino washi*, and these delicate creations are then judged on their artistic beauty. Mino boasts several streets lined with the traditional “*udatsu style*” homes that were common in the Edo Period, and the exhibition entries are lined up along these picturesque streets and illuminated for night-time viewing. The exhibition, which is held every year in mid-October, has gained a nationwide reputation and it attracts crowds of visitors from around the country.





成長するあかりと共に

美濃和紙あかりアート展実行委員会
実行委員長 井上 哲也

美濃和紙あかりアート展は平成20年6月、ティファニー財団賞伝統文化大賞をいただきました。記念すべき初の受賞で、事務局から手紙が届いたときは、実行委員一同驚くとともに、今までの努力が一気に報われる思いで、感激もひとしおでした。

何より嬉しかったのは、この賞がイベントとしての「美濃和紙あかりアート展」そのものだけでなく、裏方を支える「実行委員会」にも光を当ててくれたことです。実行委員会は全てボランティアで運営されています。500人以上の出展者と10万人を超える来場者を、おもてなしの心でお迎えするために、当日の細かなスケジュールやサブイベントなどについて、意見を交わしながら、1年かけて準備をしています。そんな地道な活動が受賞を通じ認められたことで、私たちは「美濃市の活性化の一助となっている」というふるさとへの誇りを強めることができました。

20年続いてきたこのアート展は、さまざまな苦勞や失敗を乗り越えながら実行委員や市民の皆様とともに成長してきました。そんな、ささやかながらたくましいあかりを見つめながら、私たちはアート展への思いを深め、継続の大切さを改めて知りました。これからも美濃市発展のため、賞に恥じることのないよう日々邁進していきたいです。